

祝 辞

独立行政法人国立病院機構理事長

矢崎 義雄

大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)が設立20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。UMINは、全国医学・医療研究者のための情報センターとして設立され、研究、教育、診療等の各分野に渡る多くの情報サービスを運用して、多数の利用者を得ていることはよく知られています。日本の医学研究者でUMINを知らない人はいないでしょう。本当にこの20年のUMINの発展は驚くべきものといえます。

私は、UMIN設立当時から約10年間は、東京大学医学部附属病院第三内科・循環器内科で、研究・教育・診療に従事しておりました。UMIN設立当初の状況はよく覚えておりませんが、1990年代中頃には電子メールの利用を中心にUMINの活用が広がって行ったことを覚えています。次いで、Webを利用して様々なサービスの提供が始まり、利用者も増加し、いろいろな機会でもUMINの話聞くことや、UMINのホームページを利用することが増えてきました。

私は、ITに強い世代ではありません。しかしながら、若い人たちの知恵や力をお借りしながら、循環器病学分野のIT化に努めてきたつもりです。そのパートナーとしてUMINは本当にありがたい存在でした。UMINの関わりについて、私個人としては、最大のものは、平成10年4月に開催されました日本循環器学会学術集会のオンライン演題登録の運用です。4,000題を越す演題を電子化収集し、効率的に短期間で査読・印刷を終えることができました。日本循環器学会が先鞭をきった試みに他の多くの学会も注目・賛同し、UMINの演題登録の活用が大きく進みました。本件については、記念講演の原稿で詳しく述べさせていただいておりますので、ここでは簡単に記すだけに留めたいと思います。オンライン演題登録の他に取組んだのは、学会が会員へ提供する各種情報のオンライン提供です。私が日本循環器学会理事長の時代に、同学会の会員を全員UMINに登録し、UMINの会員制ホームページサービスを活用して、日本循環器学会の会員への情報提供サービスを電子化・オンライン化しました。これも大きな学会としては、当時先駆的な試みでした。これによって、会員が簡単に学会の提供する情報を参照できるようになった他、印刷物では配布するとコストのかさむ各種の資料・学会抄録等の会員への提供をオンラインで安価に実施することができました。

私は、現在、独立行政法人国立病院機構で理事長をしております。国立病院でも、UMIN設立の9年後に、国立病院総合情報ネットワークを稼働させて、国立病院のネットワーク化と各種のデータ提供・情報収集に活用しています。大学病院のネットワークであるUMINとは、その目的や性格は異なりますが、UMINのサービス内容、運用法等も随時参考にさせて

いただいています。

UMINのような情報インフラは、海外にも類例のない日本独自のものと考えています。今後とも、医学界のアカデミックな情報インフラとして、UMINが重要な役割を果たしていくことを願っています。